

営農情報（水稻）

令和5年6月発行

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター
久留米普及指導センター

1 生育概況

6月上旬現在、育苗初期で、曇天が続いたことにより、苗はやや伸び気味になっています。病害の発生などは特に見られていません。

2 雑草防除（初中期一発除草剤）

初中期一発除草剤は、どの剤型も水を介して広がり、土壌表層に草を枯らすための「処理層」を作ります。特にジャンボ剤やFG剤の散布時は、田面が露出しないようしっかり湛水しましょう。

除草剤名	散布量 (10a当たり)	使用時期	注意事項	
サラブレッドKAI	1キロ粒剤	1kg	移植時または 移植直後～ヒ ² エ2.5葉期	湛水散布（水深3～5cm）
	フロアブル	500ml		
	ジャンボ	10パック	移植直後～ヒ ² エ2.5葉期	湛水散布（水深5～6cm）
ガンガン	1キロ粒剤	1kg	移植時または 移植直後～ヒ ² エ3葉期	湛水散布（水深3～5cm）
	ジャンボ	10パック	移植後3日～ ヒ ² エ2.5葉期	湛水散布（水深5～6cm）
ドラゴンホークZ	1キロ粒剤	1kg	移植時または 移植直後～ヒ ² エ3葉期	湛水散布（水深3～5cm）
	フロアブル	500ml	移植後3日～	
	ジャンボ	10パック	ヒ ² エ3葉期	湛水散布（水深5～6cm）
ビクトリーZ 400FG	400g	移植後5日～ヒ ² エ3葉期	湛水散布（水深5～6cm）	

※除草剤成分の河川への流亡を防ぐため、散布後7日間は落水できません。

3 水管理

(1) 活着期(田植え後～10日ごろ)

田植え後、植え傷みを防ぐため、3 cm程度湛水します。

除草剤散布時には、5 cm程度湛水し、散布後3～4日は湛水状態を保ちます。

ジャンボタニシが多い所は、スクミノン(2 kg/10a)を散布します。

(2) 分けつ期(田植え後10～30日ごろ)

浅水間断かん水を行います。

麦わらをすき込んだところは、ガス抜きも兼ねて、落水期間を長くした間断かん水とします。

(3) 中干し(田植え後30日ごろ～)

株当たりの**茎数が20本程度**になったら(目安：田植え後約1か月)、7～10日間、中干しを行います。

特に、元気つくしは、倒伏防止のため、中干しを確実にを行います。

<ポイント>

◎中干しの程度は、田面に小さな亀裂が入り、軽く足跡がつく程度です。

◎幼穂形成期以降は水が必要な時期に入るため、出穂約20日前頃までには中干しを終わります。

4 中・後期除草剤

初中期一発除草剤の散布後も雑草が残っている場合は、雑草の種類に応じ、以下のいずれかを下記のとおり散布します。

雑草の種類	薬剤名	散布量 (10a当たり)	散布方法	使用時期
イネ科雑草 (ヒエ)のみ	トドメMF1キロ粒剤	1kg	湛水散布	移植後14日～ ノビエ5葉期 ※収穫50日前まで
	トドメMF乳剤	200mL (25～100Lの 水に希釈)	湛水散布 または落水散布	移植後14日～ ノビエ7葉期 ※収穫50日前まで
イネ科雑草と 広葉雑草	ワイドショット 1キロ粒剤	1kg	湛水散布	移植後15日～ ノビエ4葉期 ※収穫45日前まで
	レブラスジャンボ	10パック	湛水散布	移植後14日～ ノビエ4葉期 ※収穫60日前まで
	トドメバスMF液剤	1000mL (70～100Lの 水に希釈)	落水散布	移植後15日～ ノビエ6葉期 ※収穫50日前まで

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!